

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一年の目標、毎月の目標を会議で立てて、朝礼で毎日確認をしています。評価は毎月の会議で前月の反省を出し合っています。目標をスタッフ皆で確認しサービスにつなげています。	日々完結で職員が交替で担当リーダーを務め活動しているので、各職員はリーダーとして理念の持つ意味を十分理解し、自身のスキルアップや目標に活かせるようにしている。ホームは2ユニットで1・2階となっているが、朝礼は合同で行うため担当フロア以外の利用者の情報も日々把握し、連携しながら迅速な支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事を通して、繋がりを持てるようにと、ふれあい祭り、お餅つきを行い利用者の方にも、地域の方とふれあいが持てるように計画しています。また、地域のボランティアさんにも来初してもらっています。	自治会費を納め、運営推進会議を通して地域の情報を収集している。ホームで行う「ふれあい祭り」などの催しは、地域の子供達の参加を踏まえ民生児童委員の方々を通して呼びかけをしていただいている。また、近所の住民によるハーモニカ演奏やボランティアによるフラダンス・ピアノの催し物などにも来訪していただき、楽しいひと時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の磯部区、福井区の10月、11月に開催された、ふれあいサロンに講師として依頼を頂き、認知症予防というテーマでお話をしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営会議の際に、それぞれの立場で意見を伺い、意見については参考にさせていただき、サービスにつなげている。	運営推進会議は年間計画を年度初めに立てて日程表を関係者に配布している。家族、区長、民生児童委員、消防団団長、市職員等の参加をいただき定期的に開催している。ホームから利用状況や活動状況を報告し、意見や助言をいただきホームの運営に活かしている。会議開催時間は午後のため、理学療法士によるリハビリ体操(機能回復訓練)などと日にちが重なった場合、参加して一緒に体操をしていただくこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは運営会議でしかお話が持てずにいますが、介護相談員さんとは、毎月来初していただき実情を見ていただき、利用者の方ともお話をさせていただいています。	介護認定の更新手続きは利用者全員がホームで行い、調査員来訪時には利用者の生活の様子を伝えている。市内の関係事業所が集まる市主催の施設部会の会議にはケアマネージャーが参加し情報収集等に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠に関しては、日中はせず、施設内外には自由に行き来できるようになっています。その他の拘束に関しては、基準を理解して行っていない。	身体拘束ゼロに向けてホーム内研修で意識づけをしており、拘束をせざるを得ない状況下にはない。ヒヤリハット等の事例が生じた場合、朝礼や終礼時に事故対策と関連づけて拘束についての話をし注意を喚起している。ホームではセンサーマットの必要性が生じた場合でも用具を置かず布団に鈴をつけて対応しており、利用者への配慮が伺える取り組みをしている。	

あつといーずホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に言葉遣いには注意を払い、利用者の方に対しての接遇を注意しています。実際に、そぐわない接遇、言葉遣いに対しては、その場または終礼で話し合いを持っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関してはなかなか勉強会等を行っていない現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については、管理者だけではなく、会社の代表者が同席をして利用者の不安や疑問をその場で解決できる様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設けています。年に一回アンケートを郵送しております。その意見を会議で話し合い、生かすように努めています。	自身で要望を伝えることのできる利用者は数名で、身振りや断片的に発する言葉、生活歴、家族等との話し合いの中から思いを受け止めホームの運営に活かしている。家族等の高齢化や事情により家族会はないが、毎年、必ず開催する敬老会に家族が参加しており、家族アンケート調査も同時に実施しその結果をホームの運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の事業所の会議と二月に一回の会社全体会議を開催し、スタッフとの話し合いを聞く機会を設けています。それ以外では、個人面談も行っています。	2年前より自己評価制度を導入し、職員一人ひとりが毎月の目標を定め翌月始めに振り返り責任者との面談を実施している。資格取得にも事業所のバックアップがあり、費用の応援等の体制ができており、ホームとして職員の実務者研修等を外部の機関に委託して実施している。職員のモチベーションアップや定着率のアップにもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足の中なので、労働時間などの融通、給与水準までは、行えていないものの、処遇改善加算の制度を使い評価し段階に分けて一時金を支給を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足で希望先の研修に行ってもらえてはいませんが、3年以降のスタッフには介護福祉士の資格を受けてもらうため、費用を負担しています。また、実践者研修も受講してもらい費用負担をしています。		

あつといーずホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の部会に参加してもらい、情報交換や勉強をする機会を設ける様に努めているが、人員不足のため参加できないことがある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の契約時に、ご本人から不安や要望を伺い、入所の際のストレスを少なく出来るように努めている。必要であれば、担当ケアマネジャーに意見を伺う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の契約時に、ご家族から不安や要望を伺い、入所の際のストレスを少なく出来るように努めている。必要であれば、担当ケアマネジャーに意見を伺う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、現在の状況に合わせて、即入所という選択だけでなく、デイサービスやショートステイなどのサービスも視野に入れてアドバイスや、お話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上げ膳据え膳ではなく、生活する上での残存能力を見極めて、その人の役割や居場所づくりを提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に一回の敬老会のご家族と共に行う行事とさせていただきます。面会の少ないご家族様には、スタッフが行事を計画して外食と一緒に出かけられる様に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、ご本人の意向に沿えるように、会話の中に出ていた場所やご家族からの情報を元にお孫さんの野球を見に行ったり、外出のサポートをしています。	知人・友人等との面会については予め家族等との確認ができていますが、一般的な時間帯であれば面会者の受け入れは常時行い馴染みの関係を継続している。行きつけの美容院へは数名の利用者が出かけ、職員の送迎で利用している。お盆や正月に家族と共に、自宅に帰られる利用者もいる。	

あつといーずホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々人の性格や認知症の症状を理解したうえで、普段の席の配置や、行事などでのメンバーを考えて良い関係でいられる様になっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの方が、お亡くなりになって契約が終了となっているので、相談支援は行えていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での、言葉やしぐさなどで意向を把握し3カ月に一度、介護計画を作成し皆で検討している。ご家族にも確認していただき、希望も伺っています。	利用者の思いや気持ちの把握に職員は努めている。後から入居された利用者には自分の得意な役割をさせてしまい不愉快な思いをした利用者の心のケアのために、別フロアの仕事を頼み気分転換を図ったりするなど、職員は細部にわたり気配りをしている。本人や家族の希望等は個人記録に記載し、職員間で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時のアセスメントにて、ご本人ご家族に伺い把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一日一枚の介護記録を作成をして、その日の過ごし方がわかるように記録をしています。それ以外に、日報を作成してスタッフが共有できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での、言葉やしぐさなどで意向を把握し3カ月に一度、介護計画を作成し皆で検討している。ご家族にも確認していただき、希望も伺っています。	利用者の担当職員が評価をし、計画作成担当者が確認後サービス計画の見直しに繋げている。日々の日報からも要望事項や気づきを読み取り、計画に反映している。利用者のつぶやいた言葉も記録するように職員は常に心がけ、その思いの実現のため具体的な援助内容を組み込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一日一枚の介護記録を作成をして、その日の過ごし方がわかるように記録をしています。それ以外に、日報を作成してスタッフが共有できるようにしています。		

あつといーずホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化に伴う急な病院への受診や、ご家族の行事の際に、スタッフが同行して行事に参加するなど柔軟に支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用とまでは行きませんが、地域とのつながりが持てるように、地域の方が参加できる行事や、日々の生活ではスタッフと一緒に買い物に出かけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を伺いながら、主治医を決めて月一回の往診や、必要な方は受診をし健康に留意しています。	家族対応で定期受診に出かける利用者もいるが協力医をかかりつけ医としている利用者も多く、月一回の訪問診療を受けている。緊急の場合の家族への連絡や相談、結果報告については、その日のリーダーが責任をもって実施している。歯科診療に関しては季節の節目ごとに医院より連絡が入り、訪問診療を受け、専門の治療が必要な場合には、職員が付き添い通院治療に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化や、不安なことは看護職員に相談をして、受診や手当が受けられる様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった際には、その病院のケースワーカーさんに入院した日または翌日には、入院の経過を伝え、早期に退院できる様に伝えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては、ご家族と面談をさせていただき、契約書を取り交わしながら説明を行い、ご家族の意向と施設側の意向を話し合い支援しています。	契約時に重度化や終末期についてのホームの考え方や支援の方法を家族等に説明し同意を得ている。現在も多くの利用者がホームでの看取りを希望している。医師・看護師と連携し支援に努め、状態の変化に合わせて家族とも綿密に話し合い取り組んでいる。また、職員の心のケアについても研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回職員全体会議で、消防署の協力を得て、救急法とAEDの講習を受けています。		

あつといーずホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を行い、そのうちの1回は地域の自衛防災団の方にも参加していただいています。	年3回のうちの1つとして、夏まつりの後に夜間想定で実際に避難を試み訓練を行っている。また、区の自衛防災団の指導により具体的なアドバイスもいただけており、職員の防災に対する意識も高い。台所周りはIHの調理器具のため炎が上がることはなく、防災設備や備蓄もあり安全性に配慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには気を遣うように、スタッフ全員で日頃のコミュニケーションのあり方を日々朝礼終礼で当日または前日の反省を行っています。時には会議での議題にも取り上げて徹底しています。	ホームの考えとしての「温かさの中にも、礼儀を重んじる」ことを職員へ周知徹底している。ホームとして普段の職員の会話や報告書の中で使用する「利用者様」という言葉を「お客様」という表現に変更した。職員の利用者に対する意識改革にも確実に繋がっており、話し合いを重ねることで人権意識も高めることができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	天気の良い日のお散歩やお買い物等の外出は、ご本人に伺いその日の気分により行っています。食事の盛り方も、その日の体調や気分によりご本人が調節する方もいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日のお散歩やお買い物等の外出は、ご本人に伺いその日の気分により行っています。食事の盛り方も、その日の体調や気分によりご本人が調節する方もいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で意思が伝えられる方は、当日着る洋服を相談して着られています。一人の方ですが、馴染みの美容室に行かれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせて、メニューを決めています。準備片づけは、役割の中で利用者様の日課とされている方もいます。外食行事も取り入れています。	利用者の半数は何らかの介助が必要で、食事形態はお粥、ミキサー食の方もいる。献立は職員が考え、毎日買い物に出かけている。1・2階の献立は基本的には同じで、作る職員により味や盛り付けなどが変わっている。利用者と職員は料理の話をしながら同じものを一緒に食べており、楽しい食事の光景が垣間見られた。おやきや野菜炒めなどは利用者の得意なメニューで職員とともに作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事管理票や水分摂取表などにより、状態を把握して、体調変化、体重の増減がないか確認をしています。		

あつといーずホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実践しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の個人記録シートを活用して、排泄のリズムや習慣を確認しながら、日中は出来る限りトイレで排泄を行っていただいています。	屋間はトイレでしていただくように心掛けている。特に排便に関しては腹圧がかかることで出やすくなるため排泄パターンを個人記録で確認しながら、声掛けと誘導を行い促している。パット等の消耗品に関しては家族とも連絡を取りながら利用者一人ひとりに適したものを選び、数量の記録も取り随時の見直しもかけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事を提供したり、その方に応じて乳製品を朝食前に飲んで頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕がたまたは、夜の入浴は積極的に行っていません。回数は多くありませんが、夜入浴された方はいます。	週2回の入浴に努め、夏場の暑い時期や失禁で汚れた場合などにシャワー対応をしている。入浴を強く拒まれる利用者は現在いないが、言葉がけでスムーズな入浴を促している。近所の足湯に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝する方やしない方はいますので、ここに合わせています。夜間もなかなか休めない方は、スタッフと共に深夜までTVを見て過ごす方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の支援のもと、薬係りスタッフという連携をとりながら薬の管理、服薬介助支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の役割や日課のある方は行っていただいています。そうでない方にも、月一回行う行事等で季節感を味わって頂いたり、気分転換を出来る様に心掛けています。		

あつといーずホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、ご本人の意向に沿えるように、会話の中に出ていた場所やご家族からの情報を元にお孫さんの野球を見に行ったり、外出のサポートをしています。	外出時には車椅子利用の方が約半数になる。ホームでは「夢活動」と称して外出も含め利用者の夢をかなえる取り組みを行っており、日常の会話の中で見つけた思いの実現のために計画を立てお手伝いをしている。上田市の真田館に行きたい、蕎麦を食べたいなど、様々な夢を具体化している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は一人の方のみ現金を所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的には行えていませんが、年賀状はご家族に宛てたものを、利用者様と一緒に制作しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節の装飾をしたりしています。	食堂兼居間の共用スペースには小上がりの畳の間とオープンキッチンコーナーがあり、生活を感じながら過ごせるようになっている。各居室は見通し良く配置され、居間の大きめの掃き出し窓からは外の風景が見え閉塞感はない。壁にはお祭りの記念写真や工作で作った折紙などが飾られ、また、大きなカレンダーも掛けられ、温かな雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ここの性格や習慣にあった居場所作りを心掛けていますが、限られたスペースの中なので限界もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方によって違いますが、筆筒一つのみの方もいれば、家財道具を持ち込む方もいます。	居室には床暖房とエアコンがありベットと物入れが備え付けられている。腰高の窓からは明るい日差しが差し込み、思い思いに持ち込まれた小ぶりの整理ダンスや家具などが整理整頓して置かれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あまり仰々しくならない様に、トイレと書いて張っておいたり、ご自分のお部屋が分かるように、目印をしたりしています。		